



ほ場の隣地が放棄地 ~ 再生による **農地集積** で 収量倍増!!



「西浜いも」ブランドでのさつまいも栽培が盛んな地域の近接地。再生地では砂地を生かしたダイコン栽培が行われている。平成22年度に従来からのほ場の北西側の放棄地を再生、平成23年度にはさらに東側の放棄地を再生し、集積化を図った。夏は緑肥用のひまわりで景観も保全。

【出雲の気候 年平均値】		春/3~5月	夏/6~8月	秋/9~11月	冬/12~2月
気 温	(°C)	12. <sup>2</sup>	24. <sup>0</sup>	16. <sup>6</sup>	5. <sup>5</sup>
降 水	(mm/月)	122. <sup>2</sup>	192. <sup>3</sup>	138. <sup>7</sup>	114. <sup>1</sup>
日 照	(時間/日)	5. <sup>7</sup>	6. <sup>0</sup>	4. <sup>6</sup>	2. <sup>3</sup>



放棄地面積 17.9ha

再生面積 0.5ha

22年度 26a  
23年度 26a

再生前の状況



きっかけ

平成22年度に耕作放棄地26aを再生し、砂地を生かしたダイコン栽培を開始。東側の隣地も耕作放棄地となっており、集積による規模拡大を図るため新たに28aの再生事業を実施した。

農業委員会の関わり

再生地は20年以上放置され、地権者は10人。地権者不詳の農地もあったが、農業委員会・JAの協力を得て関西在住の複数の地権者が判明、利用権設定が可能になった経緯もある。



営農状況



露地やさい 100a(うち再生利用地は54a)



ハウストマト

~再生地でのだいこん収穫量は6万本から13万本に倍増!

再生内容

林地化寸前まで荒廃していた。除草、灌木除去、天地返し、土壌改良を実施。併せて、制度の支援を受けスプリンクラー8基の設置、自動給水設備も整えた。

住民から感謝

接面道路は学童の通学路。再生前写真のような状態で通学路としては暗く不安がられていた。再生後は明るい路になり保護者からも喜ばれている。

23年に再生した農地の隣地も林地化しつつあり、「こちらもぜひ綺麗にして」との声もあるが、こちらは今も地権者が不明で再生利用ができないのが残念。



地区内ではきゅうり産地化の動きもある。ただ、土地もない、施設もない状況。これらの課題に対しては、組織化、集団化により新規就農等の環境も必要。数年後の色々な姿を構想するなか、若手就農者の集団化の必要性は高い。25年春には全国農業会議所事業である「農の雇用」制度で雇用していた研修生が島根県農林大学校に入学。専門的に農を学び、卒業する3年後には構想している若手就農者集団のリーダーとしての役割を担わせたいと考えている。





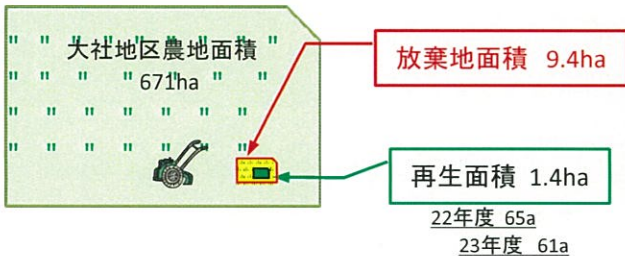
皆さんに喜んでもらえる野菜「白ネギ」～ となり町の好適地を再生利用。



大社地区は良質の砂地の特質を生かしたぶどうのハウス加温栽培の一大産地。しかし近年、農家の高齢化、後継者不在を理由に耕作放棄されるぶどう畑も散見されつつある。

これらの放棄地を再生利用して、土質を活かした白ネギ栽培が始まっている。

【出雲の気候 年平均値】	春/3~5月	夏/6~8月	秋/9~11月	冬/12~2月
気温 (°C)	12. <sup>2</sup>	24. <sup>0</sup>	16. <sup>6</sup>	5. <sup>5</sup>
降水 (mm/月)	122. <sup>2</sup>	192. <sup>3</sup>	138. <sup>7</sup>	114. <sup>1</sup>
日照 (時間/日)	5. <sup>7</sup>	6. <sup>0</sup>	4. <sup>6</sup>	2. <sup>3</sup>



きっかけ

祖父が県職員から耕作放棄地再生緊急対策制度を聞き、土質的に好適性がある大社地区の耕作放棄地を再生利用した白ネギ栽培を考えた。

平成22年に初めて再生をやっていたところ、状況を見ていた人から「うちの畑もやってほしい」と要望があったほか、農業委員会からの要請地も出てくるなどして平成22年度に2ほ場65a、23年度には4ほ場61aと1haを大きく超える再生利用が行われている。

白ネギのほかに

水稲 60a いちじく 37a その他ブロッコリー  
・・・などを自宅ほ場で栽培

ねぎ管理機も導入

交通量多い幹線道沿い。荒廃激しい状況にあり大きく景観を損ねていた。行政からの要望を受ける形でもあったが、耕地化されたことによって景観は格段に向上。近隣の人からも喜ばれている。

ぶどうハウスの寝石除去作業の際には重機も壊れるほどの状況もあり、苦労もあった。平成23年度には制度を利用して地域協議会でねぎ管理機(土寄せ機)が導入され、これを利用することで作業の大幅な省力化が可能になっている。

再生してみて・・・

長年管理されていない農地。土壌改良は数年かける必要性大！  
このための継続した支援がほしい、との要望もある。

